



「復興の一助として」

町区長会、能登半島地震への義援金を寄託

町区長会(会長・小野寺政雄第7行政区長)は3月1日、能登半島地震の被災地への義援金105,000円を、日本赤十字社町分区長の青木町長に寄託しました。

小野寺会長と鈴木節郎副会長(第12行政区長)が役場を訪れ、義援金を青木町長に贈りました。小野寺会長は「被災地は厳しい状況が続いていると思う。復興の一助にしてほしい」と願いました。

義援金は、町内の全行政区長から募りました。



県読書推進運動功績者表彰を受賞

読み聞かせサークル「パパ♡イ～ヨ」

町内の児童生徒がいる父親でつくるパパさん読み聞かせサークル「パパ♡イ～ヨ」(千葉太一会長、会員15人)は、読書の普及の推進に貢献したとして、県読書推進運動協議会から功績者表彰を受賞しました。

パパ♡イ～ヨは、毎月小学校などに出向き、読み聞かせを展開しています。千葉会長(7区)＝写真中央＝は「読書のさらなる推進のため、仲間を増やしながら活動を継続していきたい」と意気込みを語りました。



ガイドと一緒に史跡を巡る

世界遺産「平泉」史跡探訪

町は3月6～7日、世界遺産「平泉」の関連資産を見学する「ガイドと巡る世界遺産「平泉」史跡探訪」を一関、奥州両市と合同で開催しました。

6日は奥州市の白鳥館遺跡や長者ヶ原廃寺跡、町内の柳之御所遺跡を巡り、7日は一関市の骨寺村荘園遺跡や町内の達谷窟や無量光院跡を見学。参加者はガイドの解説を聞きながら散策し、身近にある文化遺産の成り立ちやその価値に理解を深めました。



町内2個人、2団体が表彰を受ける

防災意識、防災力の向上に尽力

地域の防災意識や防災力の向上に尽力したとして、町婦人消防協力隊のいずれも副隊長の千葉友子さんと稲葉靖子さん、13区自主防災会(千田幸男会長)と20区自主防災会(佐々木正会長)は、一関市消防本部から優良自主防災組織等表彰を受賞しました。

表彰式は2月17日、同本部で行われ、稲葉さんと千葉さん、両自主防の役員が出席。小山晃消防長から賞状と盾の贈呈を受けました。

「被災した皆さんに」

「20区民会」が能登半島地震へ義援金を寄託

第20行政区の自治会「20区民会」(会長・佐々木正区長)は3月4日、能登半島地震の被災地への義援金10,000円を、日本赤十字社町分区長の青木町長に寄託しました。

同日は佐々木区長が、役場で義援金を青木町長に手渡し「どこでどんな災害が起こるか分からない。被災した皆さんに役立ててほしい」と期待。青木町長は「しっかりと現地に届ける」と話しました。



被災して困っている人の助けに

平泉小学校が能登半島地震への義援金を寄託

平泉小学校の児童は2月20日、能登半島地震の被災地への義援金として、児童や保護者から寄せられた6万円余りを、日本赤十字社町分区長を務める青木町長に寄託しました。

役場を訪れたのは、児童会執行部の9人。児童会長の佐川遼貴さんと副会長の佐藤羽奏さん(ともに6年)が義援金の目録を青木町長に手渡し、佐川さんは「被災して困っている人々を助けてください」と話しました。



追悼の「3.11夢灯り」

震災から13年、すぎのこクラブの児童

平泉小学校区の放課後学童クラブ「すぎのこクラブ」は3月11日、東日本大震災の犠牲者をしのぶ「3.11追悼夢灯り」を学校校庭で行いました。

震災の教訓を伝えようと開催。クラブ児童約50人は、卒業生や保護者、地域住民が見守る中、災害を題材にした紙芝居のほか、手振りを交えて「花は咲く」などを合唱しました。鈴木晴空さん(2年)は「みんなに震災のことを伝えられたら」と思いを込めました。



石川県能登町に町職員を派遣

家屋などの公費解体申請の受付支援に従事

能登半島地震で被災した石川県能登町を支援するため、町は2月26日～3月4日の8日間、職員1人を派遣。職員は現地で被災した家屋などの公費解体申請の受付支援業務に従事しました。

派遣されたのは、保健センター主事の遠藤大樹さん(26)。遠藤さんは「東日本大震災時の支援への恩返し気持ちで臨む」として、本県や県内他自治体の派遣職員とともに現地入りし、業務に当たりました。